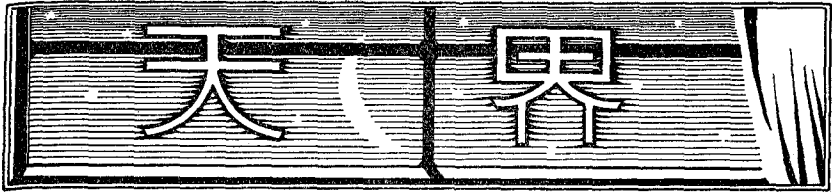


Title	天文と國際文化：卷頭言
Author(s)	山本
Citation	天界 = The heavens (1935), 15(172): 361-362
Issue Date	1935-07-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/167082">http://hdl.handle.net/2433/167082</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher



第百七十二號 (第十五卷) (昭和十年) 八月號

## 天文と國際文化

(卷頭言)

去る七月の初め、突然、米國からミンガン大學天文臺のルーファス博士夫妻を迎へて、楽しい一兩日を過した。ルーファス博士は天文や數學の専門家であるが、明治四十年から大正六年まで滿十ケ年間、朝鮮に滯留して、専門學校に於ける教育に従事する傍ら、朝鮮の古記録や遺跡を研究して、東洋の一角に中世以來盛んであつた天文学の歴史を明らかにし、其の機會に深く東洋文化の古今を味ひ知つて、米國に歸られた後も、其の家庭生活に多くの東洋趣味を採り入れてゐられる人である。吾輩は、初め同博士を單に恆星分光學者としてのみ知つてゐたが、一昨年、夏、アンナポア市外の別莊に往訪して圖らずも同博士が東洋文化と絶ち難き因縁を有つてゐられる事實に驚した記憶を忘れられない。——故ロエルと共に、吾人は此のルーファス博士の存在を正しく認識しなければならない。

朝鮮併合の前後に於ける京城に十ケ年も住み、日韓人の複雑な出入を親しく眼前に見られたル博士が、若し普通一般の社會人であつたならば、博士には有形無形の少なからざる深刻なチャンスがあつたに違ひない、しかるに、今日、吾人の眼にうつる博士は、朝鮮人を盲愛して日本人を辟視する如き様子が少しも見えず、飽くまで、神の如く公正なる立場に於いて總てのひとと邦土とを愛し味ふ態度に徹底してゐられる。一昨年、吾輩が博士の別莊を突然訪ねた時には、日本の女下駄や岐阜提灯や算盤など、誠に愛敬すべき日本趣味者としての現はれが室内外に覗はれ、却つて其所には何の朝鮮趣味も無かつた。ところが、今年一ケ年の休暇を可なり老齡の博士夫妻が態々また朝鮮にやつて來て、二十年以前の朝鮮文化研究に没頭せられる様子を見ると、や

はり博士は朝鮮の土地に變らざる執着を有つてゐられるのであらう。

尙ほ、今回、吾輩はル博士を迎へて、暫く快談した中に、吾人相互が世界を通じて眞にコスモポリタンの境地を楽しみ、天文家なるが故に、至る所に知己朋友と交遊し得る特權を、繰り返し語り合つたのであつた。——こうした境地は、今日のやうな國際問題の多い時代に、言ふべくして、なか々々體驗上徹底し難きものであるが、博士は實に趣味と、研究と、交友と、社會生活との、あらゆる方面に於いて、極めてナチュラルに此うした國際人たる事を味得せられる點、一驚異とするに足ると言はなければならない。

天文を單に一つの理學乃至技術としてのみに局限せず、むしろ之れを人間文化の重大なる一要素と認識し、毎日日常の體驗を通じて、人生を明るさと、味はひの豊かな理想へ導くための指導原理とする點に、吾人の進み方を徹底したい希望を棄てることなく、どこまでも、天文人として、人と共に楽しみ、人と共に喜ぶ心の、愉快的修練を、積みたいものである。ル博士の貴き經歷と、現在の生活とを見て、そこに吾人がための美しい一つのモデル・ライフとして之を觀ぜざるを得ない。(1935, 7, 12 山本)

### 過去及び將來の日本の皆既日食

1887年 (明治20年)八月19日、新潟縣、福島縣地方 (15時頃)。

1896年 (同 29年)八月 9日、北海道 (14時頃)。

1918年 (大正 7年)六月 8日、伊豆南方の島島 (早朝)。

1934年 (昭和 9年)二月14日、南洋ロップ島 (朝)。

**1936年 (昭和11年)六月19日、北海道の北方沿岸 (15時頃) 明年の日食!!**

1941年 (昭和16年)九月21日、沖縄 (13時頃)。

1943年 (昭和18年)二月 4日、北海道 (8時頃)。

1963年 (昭和38年)七月20日、千島 (朝4時頃)。

2009年 七月22日 奄美大島 (11時頃)。

2035年 九月 2日 京都、大阪地方 (10時半頃)。

2063年 八月24日 東京地方 (10時頃)。

明年の北海道の日食こそは場所も良いし、好い時候でもあり、交通の便もある事だから、有志の方々は大いに見物に出掛けられるがよらしい!! 因みに京阪地方から、日食地までの距離は陸地で約2晝夜、往復旅費は約30圓見當です。(編輯)